Route Press ルートプレス 21st.
道21世紀新聞
発行所：内閣府認証 特定非営利活動法人 人と道研究会
東京都千代田区三番町 7-1　朝日三番町プラザ
Web　http://www.route-press21st.jp

東日本大震災 特別編集

復興へ祈りと笑顔の絆

世界でも稀な大地震。戦慄の大津波。加えて深刻な原発事故。日本人は筆舌尽くしがたい思いを抱きながらも取り乱すことなく、自然の猛威を「現実」として静かに受け止め、前向きに生きる。3・11東日本大震災は現代社会に大きな課題を投げかけた。発生から2カ月近い。復旧から復興、再生への歩みは着実に始まっている。その中で新たな生き方、国土のあり方が問われる。日本は自然が豊かで本当に美しい国土だ。半面、自然条件の厳しい暮らしづらい脆弱な国土でもある。先人たちは何度も自然からしっぺ返しを受けながら立ち上がり、自然に働きかけて住みやすい国土に作り変え、子々孫々に伝えてきた。日本は必ず立ち上がる。歴史にも学びつつ、国土のあり方を探りたい。（大石久和 国土技術研究センター理事長）

脆弱な国土を住みやすく 先人は大変な苦労と投資

立ち上がれ！日本人

「自然が牙をむいた」。日本も世界も驚愕した大震災。被災の惨状の中でも日本人は粛々と生きる。そのモラルの高さに海外メディアは驚き、称賛した。悲しみの中にも救いであり、日本人として誇らしい。日本人特有のこの精神性や、私たちが暮らす国土は、先人たちの努力の結晶であることを忘れまい。

厳しい条件が複合的に重なり合った国土。先人たちはずっと貧しかった時代から、技術力と組織力で堤防を造り、川の流れを変え、治水し、耕地面積を増やし、少ない可住地を開拓して住みやすい環境に作り変えてきた。何度も自然の猛威に打ちひしがれ、必死の努力で立ち上がり生きてきた。先人が残してくれた財産を受け継いだ中に、今の私たちの生活がある。

日本の国土が他国に比べ、大きなハンディを負っていることは、6～7面の詳報を参照いただきたい。

日本の国土面積は狭い。そこに世界の地震の多くが発生する。世界有数の地震大国。ドイツは地震の可能性がある地域は国内に存在せず、フランスも山岳部のほんの一部である。日本は構造物の設計でも、全土で常に地震を考慮しなければならない。

わが国は古から「豊葦原瑞穂国」と言われ稲作に適している。裏を返せば田植時の梅雨期に雨が多く降るからで、豪雨や洪水被害も多い。台風も日本を狙いすましたように襲来する。急峻な山々と狭い平野、軟弱地盤など様々な条件を考えると、日本の国土はいかにインフラや環境整備で気候に合わせなければ、豊かに暮らせないかが分かる。

日本はドイツやフランスに比べ、地震や水害に注意深く対策をするというハンディを負いながら国を発展させてきた。脆弱な国土を住みやすい環境にするため、先人たちは大変な苦労と投資をしてきたのだ。

（2面に続く）

絆を励みに前向きに頑張ろう！

NPOハッピーロードネット理事長・西本由美子さん（57）の自宅は、福島第一原発避難所で「希望」の歌声を届ける岩手県立不来方高校の生徒にあわせて振り付けを楽しむ子供たち＝4月1日、同県大槌町（朝日新聞社提供）

の退避区域で立ち入り禁止。避難所から東京の息子宅に身を寄せているが、まだ事態を受け止め切れない。ボランティアで知り合った青森や宮城の高校生や「道づくり女性の会」の仲間の応援も心強い。絆を励みに前向きに頑張ろうと誓う。（11面に「私の道」）

第32号 INDEX

東日本大震災関連ニュース 特別編集　1～13.16 面
読者の声／おもしろ万葉集　14 面
パズル／道の駅文庫　15 面

文字を大きく 目に優しく

Route Press ルートプレス 21st.
道21世紀新聞
発行所：内閣府認証 特定非営利活動法人 人と道研究会
東京都千代田区三番町 7-1　朝日三番町プラザ
Web　http://www.route-press21st.jp

建設業界、郷土愛で総力

災害復旧の最前線には常に地域の土木・建設業に携わる人々がいる。東日本大震災でも、彼らの郷土愛が復旧、復興、再生に大きな役割を果たす。社団法人全国建設業協会の会員企業は、総力を挙げて国土の再生に取り組む。

派遣作業員、延べ2万人超

震災10日後の3月21日、盛岡市の北、滝沢村にある岩手県への救援物資の集積拠点、岩手産業文化センター（アピオ）に歓声が上がった。自衛隊や消防と協力しながら土砂やがれきの撤去にあたる地元建設業界。道路は何とか復旧見通しがついたが被災地までの燃料不足が深刻だった。

そこに国交省岩手河川国道事務所の仲介で北海道建設業協会から救援物資が届いたのだ。生活用品を積んだトラックのほか、地元業者への燃料を積んだタンクローリーが来たのがありがたかった。

北の大地からの救援物資を積んだ15台のタンクローリーとトラックに乗った一行は、八幡平市と釜石市に直行し、アピオに待機した地元業者もタンクローリーに乗り込み被災地に向かった。

主な支援物資は、軽油27.7キロリットル、灯油54・7キロリットル、トイレットペーパーや粉ミルクなど6トン。宮古市、釜石市、岩泉町、大槌町沿岸部、盛岡市内周辺の病院に配られた。

物資は札幌、空知、帯広、留萌、室蘭の5地区会員企業からの無償提供だ。

重機も大量投入

国土交通省が全国の地方整備局から出動させた復旧・復興対策の車両は照明車、排水ポンプ車、対策本部車、待機支援車、散水車、情報収集車、パトロールカーなど多岐にわたる。これらの車両の運用には、全国の土木・建設業者が全面的に協力している。

東北建設業協会連合会の会員企業が国との協定に基づき派遣した作業員数は、東北6県の建設業協会と北海道建協は古くからの交流があり、今回の支援隊長、砂子邦弘・空知建設業協会副会長は「岩手の企業は知り合いも多く北海道の協力会社には岩手の人もいる。少しでも被災地の役に立てれば」と話す。

政府は当面の復旧に地元建設業者の力が不可欠と判断、進行中の公共工事などを必要に応じて一旦中止するよう自治体など発注者に要請するとともに、地元業界に復旧への協力を求めた。被災した業者もあり、建設機材も流出。公共工事中止に伴う資金繰りも不安だ。

しかし、地震や津波で壊滅した町では道路がどう通っていたか、町並みはどうだったか、地元の事情に詳しい地域業者の力が必要だ。そして何より、郷土への熱い思いがある。

土葬の仮埋葬に 建設業界も協力

他にも知られざる作業がある。遺体の土葬だ。厚生労働省は、市町村が発行する埋火葬許可証なしで火葬や土葬できるよう、遺体の埋火葬手続きに関する特別措置の適用を各県に通知するとともに、国交省を通じて全国建設業協会に協力を要請した。

被災した火葬場もあり、膨大な遺体は火葬しきれない。数年後、火葬し直すこの仮埋葬だ。全国建設業協会の関係者は「穴は掘るが、ショベルカーでの埋め戻しはしのびない。土は遺族に被せてほしい」と話す。地元業者や自衛隊員らは、心をこめて弔いながらも苦衷がのぞく。

被災地の仮設住宅においても、着工は遅れている。がれき置き場も満杯状態。地元の土木・建設業界抜きに再興はあり得ない。復興への道のりは長く厳しい。社会貢献活動に取り組む全国建設業者の連帯感と、熱い郷土愛が日本を支える。

社団法人 全国建設業協会

■全国建設業協会とは

土木・建設業界は、全国約2万1千社の建設業者が47都道府県ごとに建設業団体を組織。その地域団体が社団法人全国建設業協会の会員を構成。地域経済社会を支える基幹産業として雇用の維持はじめ、河川・道路など環境保全や災害時の応急復旧活動、社会貢献活動に取り組む。すぐれた技術者、技能者の確保や将来にわたって技術、技能の継承が出来る環境づくりも活動の大きな柱だ。

東日本大震災 特別編集

「天為」の災害受難史、凛として克服

立ち上がれ！日本人

（1面から続く）

歴史学者ブローデルは、歴史をみるとき経済や地理的要因を見過ごしてはならない、歴史は事象の表層だけを追うのでなく中層、深層も見ることが重要だと指摘する。

災害は日本の歴史にも大きな影響を与えている。NHK大河ドラマ「篤姫」の時代の幕末。1854年、安政伊賀地震、安政東海地震、安政南海地震と災害が続発。翌55年、安政江戸地震が起こり7400人以上が死亡、江戸城も被災。篤姫は地震のため輿入れを翌年に延期した。

56年、北海道で大地震があり三陸・北海道で津波被害。江戸で安政の大風災が発生、大低気圧の猛威で本所、深川、品川は高潮で海面が一気に上昇、家屋倒壊による轢死や溺死で10万人もが亡くなり、築地本願寺も崩壊した。58年には江戸でコレラが大流行、死者は23万人に及んだ。

■　□

「社会が不安定だと災害が起こる」。中国人や日本人には古来、こうした感覚がある。幕末期に続発した自然災害。民衆は言い知れぬ不安におののき、知識人は「今の政治体制で大丈夫か」という感覚をもった。民衆が漠然と抱く不安と知識人の改革志向。その肌感覚が明治維新への動きに繋がったと考える。坂本龍馬ら志士達の活躍もあるが、彼らの働きだけで歴史が動いた訳ではない。幕末期に被災した民衆の気持ちが明治維新を招き入れたといえる。

繰り返し起こる災害で、日本人には「自然災害史観」ともいうべき独特の精神性が育まれたのだ。

中国やヨーロッパでは紛争による死者が圧倒的に多い。紀元前3600年前から今日まで、世界では年に2・6回の割合で紛争が起こった計算になるそうだ。紛争はしばしば大虐殺を伴い計30億人もが紛争で死亡したという。

■　□

紛争など「人為」による死では、相手を恨んだり、なぜ負けたか、次はどうすれば勝てるか必死に考える。日本人は多くが「天為」ともいえる災害で亡くなってきた。科学技術も未発達の時代。災害の予測や備えもままならず、災害発生のメカニズムも知らない。「天為」であれば、嘆きはしても恨む相手はいない。

日本人は、中国や欧米のように理屈で説明できない「天為」でなく、説明できない「天為」によって命を落としてきた民なのだ。「天為」で落命した死者への思いは「安らかに眠ってください」と祈るしかなく「ひたすらその死を受け入れる」民である。

古来、日本人の精神の原点は自然崇拝と祖先崇拝、怨霊信仰だ。怨霊は災害や疫病をもたらす。自然への畏怖、畏敬そのものだ。精神性が他国と違っても不思議ではない。

■　□

こうした発想の違いは都市設計にも表れる。昨年、遷都1300年を迎えた奈良の平城京は中国の長安がモデル。だが、城壁の有無が違う。長安は城壁が街を囲うが平城京に城壁はない。外敵が攻めてくる地かどうかで、都市設計の思想が異なっている。

グローバル化で「人為史観」「紛争史観」の国と渡り合わねばならず、世界標準と違うと指摘され遅れているかのように批判されることもある。だが、これは歴史に培われたものなので、不安に思ったり、自信を失う必要はない。

甚大な被害を受けても、略奪なども起こらず、秩序立った避難生活が送れている姿勢は、歴史的に培われた、けなげさ、勤勉さなのだ。

今後、非常に厳しい復興が待っていよう。GDPも下がり耐乏生活を強いられる可能性もある。

■　□

何不自由ない暮らしに慣れることが国民の目標だったのか、見直す機会を与えられたと考えるべきで、今こそ日本人は改めて歴史に学び、凛とした生きざまを取り戻す機会にしなければならない。

日本は四季の移り変わりがある自然に恵まれた美しい国土だ。しかし、手を抜いてしまえば一気に荒れ果てる宿命にもある。

少しでも住みやすくと、自然へ手を加えてきた日本の国土環境は先祖から貰ったものである。私たちもよりよい形に改善して、子孫に渡す義務があるのだ。

■　□

今日、その自然への働きかけを「公共事業」という言葉に置き換えて非難し、否定する風潮が強い。しかし、それは将来世代に対する怠慢とも言えるだろう。

大震災で被災し住家をも失った方々の、今後の暮らし方を、復興過程できちんと考え、計画的に整備しなければならない。再び、大惨事に見舞われないよう、改めて日本人の地域での暮らし方を見つめ直し、環境を整えることが重要になる。

日本人は何度も大災害に見舞われながら、何度でも立ち上がり、乗り越えてきた。悲惨な体験は、先祖もみんな乗り越えてきたことである。

日本は必ず立ち上がる。日本人の生きざまを、世界に示そうではないか。

おおいし・ひさかず　建設省道路局長、国土交通省技監を経て、2004年より現職。早稲田大学大学院公共経営研究客員教授、東京大学大学院情報学環特任教授などを勤める。

壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市。道の駅「高田松原」＝写真の右端＝も外壁を残してすべて流された。（8・9面に震災前後の航空写真）

宿泊・炊き出し、「道の駅」防災機能発揮

災害時の防災拠点としての役割が注目される「道の駅」。東日本大震災でも東北各地で被災者の一時避難や救援、復旧に活躍した。

福島県南相馬市の道の駅「南相馬」では、津波は施設の800㍍手前まで押し寄せたが、大きな被災は免れたため、市が公式の避難所として開放を決め、一時は被災市民120人が宿泊した。だが、福島第一原発から半径20～30㌔圏内のため避難所は閉鎖され、自衛隊などレスキュー部隊の前線基地になっている。

同県平田村の道の駅「ひらた」も、被害は壁などのひび割れ程度ですみ、電気・水道・ガスなどが使えたので、震災直後は30～40人が休憩所で宿泊した。

宮城県大崎市の道の駅「三本木」は電気や水道が止まったが、国土交通省が防災拠点として整備した自家発電装置が早速役立ち、職員が総力を挙げ24時間営業を続けた。被災者が相次ぎ、おにぎり、菓子、もち、野菜などを無償提供。その結果、震災当日は30～40人が休憩所内や駐車場の自家用車内で宿泊し、実質的な臨時避難所になった。

東北地方の138道の駅が参加する東北「道の駅」連絡会は、通じにくい電話やブログ、新たに立ち上げたツイッターを活用して調べた状況をホームページで公開。それらによれば、以下の道の駅が宿泊、炊き出し、飲食無料（または割引）提供など救援、支援活動を展開した。

青森県＝「さんのへ」三戸町／「いまべつ」今別町／「なんごう」八戸市／「とわだ」十和田市／岩手県＝「のだ」野田村／「遠野風の丘」遠野市／「厳美渓」一関市／「くじ」久慈市／宮城県＝「津山」登米市／「米山」同／「おおさと」大郷町／「あ・ら・伊達な道の駅」大崎市／「上品の郷」石巻市／福島県＝「たじま」南会津町／「喜多の郷」喜多方市／「はなわ」塙町／「尾瀬街道みしま宿」三島町／「しもごう」下郷町

地域の防災拠点化、80駅を整備

災害発生時、道の駅が支援やサービスの手を差し伸べるのは多少なりともあったが、クローズアップされたのは2004年の新潟県中越地震だ。「クロス10十日町」（十日町市）や「越後川口」（川口町）などが、自ら被災しながら避難所開設や炊き出し、温浴施設の提供などで、被災者から感謝されたのがきっかけだ。

能登半島地震、新潟県中越沖地震、岩手・宮城内陸地震や、豪雨・豪雪などの際も道の駅の役割が評価された。そこで、国土交通省は災害対策の中心となる市町村と協議し、道の駅を地域の防災拠点として活用することにした。設備は地域で異なるが自家発電装置、貯水槽、非常用トイレ、情報提供装置など整備。現在全国約80駅（一部、施設のみ整備を含む）が拠点化された。

（左の3面に続く）

被災「道の駅」松7万本と白砂も消え

東日本大震災の被害を受けた太平洋沿いの浜街道・国道45号沿道の「道の駅」を中心に、3月下旬に訪ねた時の報告である。

被災地ルポ

国道45号は宮城県仙台市を起点に太平洋沿岸を北上、岩手県を経由して青森市まで続く510・7㌔の国道だ。ルートにあるのは、松島町、石巻市、南三陸町、気仙沼市、陸前高田市、大船渡市、釜石市、宮古市など、被災地ばかり。

平素は、陸奥国府・多賀城、日本三景・松島、リアス式の三陸海岸など、風光明美な観光ルートだが、被災地の惨状は表現できないほどの破壊で、広域だった。

■高田松原

陸前高田の海岸にあった道の駅「高田松原」は津波の直撃を受けた。中心施設の「タピック45」は外観のフレームを残すだけで内部は何もない。すぐ傍には陸前高田出身の歌手、千昌夫氏が建てた豪華なキャピタルホテル1000もあるが、甚大被害を受けていた。

駅は広田湾に面し約2㌔のビーチには松林があったが、南三陸随一の美しい白砂と7万本の松は根こそぎ流失。原木は市全域に散乱した。

■たろう

万里の長城を想わせる田老の巨大な津波防潮堤も破壊された。宮古市田老は岩手県東部にあり、陸中海岸国立公園の中央にあり、豪快な海岸美を誇ってきた。1896年（明治29年）の「明治三陸大津波」の死者は2万人を超え、1933年（昭和8年）も「三陸大津波」で被災した。

道の駅「たろう」は街中から北上した高台にあり無事だ。今回はコンビニのような役割を担った。

■遠野風の丘

風車がモニュメントの「民話のふるさと」遠野風の丘」は市街地を一望する小高い丘にある。洒落た瓦屋根の正面には自販機が整然と並び、軒下には「皆様のご支援に厚く御礼申し上げます」「復興のため全力で頑張ります」の横断幕。安否情報コーナーも特設、避難場所やきめ細かい道路情報、バス時刻表のほか、コインランドリーの案内まで手書きで書かれ心がこもる。

■やまだ（ふれあいパーク山田）

道の駅「やまだ」は高台を通る国道の山側に位置し無事。展示販売コーナーの正面入り口にはカップ麺の山。野菜はほうれん草を除きない。駐車場には災害派遣で移動中の自衛隊車両が並んでいた。

■かわさき（花と緑が織りなす安らぎの里）

道の駅「かわさき」は、国道284号の北上大橋東の高台に位置し、村への玄関口だ。駐車場では、たこやき、オデン、大判焼きも。野菜も豊富で食品棚にはおにぎりやパンも。殆どが100円で地元名物「がんづき」も好評。レストランでは暖かい野菜たっぷりのミソ・ラーメンも人気だった。

■おおさと（大きな未来をはぐくむやすらぎの郷）

大郷町は東北自動車道大和ICと日本三景の松島を最短距離で結ぶ地方道・大和松島線の中間に位置する。道の駅「おおさと」の駐車場で営業するたい焼き店には行列。自販機はオール100円の張り紙。コメも産地のひとめぼれを販売していた。

写真上と中＝道の駅かわさき　下2枚＝道の駅おおさと

（右の2面から続く）

一方、計画的に整備されていない道の駅は、避難所として利用された場合「負担した食材、暖房などの費用が過大になって困る」など、様々な問題も抱える。

07年の岐阜県東濃地区の道の駅を皮切りに、08年福島県と福島「道の駅」連絡会が「防災に関する基本協定」を締結し、災害時に避難施設、飲食物を提供する全国のモデルになった。

国交省による道の駅の防災拠点化、自治体と地域の道の駅との災害協定締結は、東日本大震災を機に一層進むとみられ、道の駅の「休憩」「情報発信」「地域連携」機能に加え、第4の「防災」機能が重視されることは確かだ。

東日本大震災 特別編集

写真は左から順に3月11日、相馬沖における巡視船の津波遭遇状況（海上保安庁HPより）

大津波 発生メカニズムと3つの脅威

東日本を襲った大規模津波。一瞬にして多くの尊い命や貴重な財産を奪い、今も被災者が長期の避難を余儀なくされている。改めて発生のメカニズムとその怖さを紹介する。

津波は英語で「Tsunami」と表記する。それだけ日本は世界でも有数の津波大国なのだ。日本で最初の津波の記述は約1300年前の684年。1900年以降では、7年に1回程度の割合で大きな津波が来襲している。

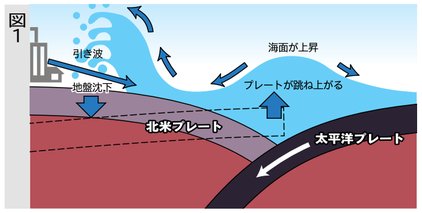
今回の津波は、東北地方が乗る北米プレートと、そこに沈み込む太平洋プレートの境界部に溜まっていたひずみのエネルギーが発散して地殻変動を起こし発生した。通常地殻変動は一つか二つの震源域が動くが、今回は宮城県沖、福島県沖、茨城県沖の3つの震源域が連動し、南北500㌔、東西200㌔も動いた。

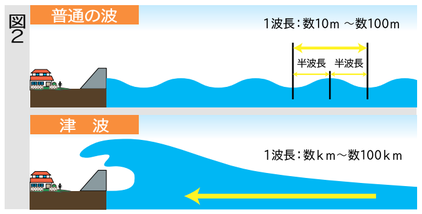
地殻変動が起きるとプレート（岩板）が隆起することで海面が上昇し、重力の法則により元に戻ろうと海面が下降。これが津波となり沿岸部に進む＝図1。M7クラスでは海底隆起は1㍍程度だが、今回はM9・0で、震源の東端に位置する水深6000㍍の海底地盤が約5㍍隆起したとされる。

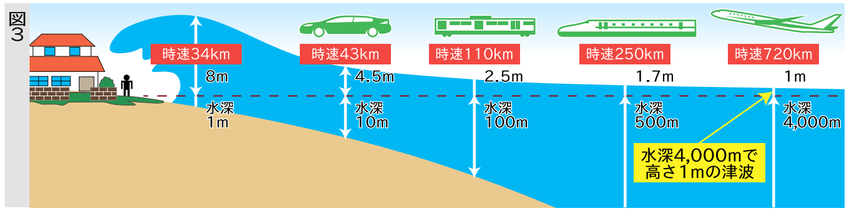
これだけ地盤を持ち上げる、とてつもないエネルギーだ。地盤が跳ね上がった分、陸上の地盤が沈下し、地形が水平に移動する。宮城県牡鹿半島で東南東方向に5・3㍍移動し、約1・2㍍沈下。沖合では約24㍍も移動したとされる。

地盤沈下によって津波は内陸部まで深く食い込み、震災後1カ月以上経った今も海水が引かない場所がある。高潮時には堤防を超えて海水が浸水してくる恐れもある。

日頃見る波は風と気圧の気象変動によって生じ、主に海面の表層部分だけが動き、波形も数10～100㍍で変化する。地殻変動で生じる津波は、海底から海面まで同じように動き、波の形も数分から数十分でゆっくり変化し、波の先頭から後ろに同じ高さの波が数㌔繋がっている。津波は長波と呼ばれ、波の一種だがその怖さは波動理論で説明できる＝図2。







①速度と高さ

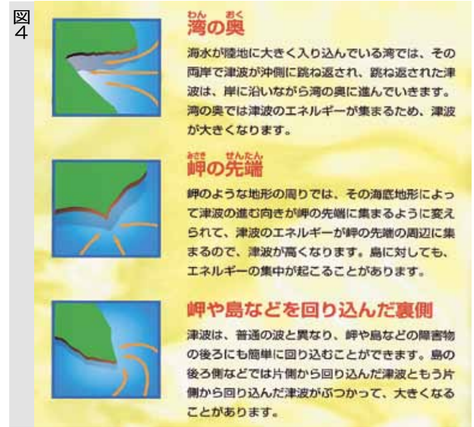
第1の怖さは波の進む速さと高さ。深い海ほど津波は速く、浅いと遅くなる。水深4000㍍で高さ1㍍の津波が発生すれば、ジェット機並みの時速720㌔で進み、沿岸部の水深1㍍では、2階屋根を超える高さ8㍍となり、速度は走るより速い＝図3。地震発生の約30分後には岩手県釜石港の港町地区に第1波が押し寄せた。

②複雑に来襲

第2の怖さは波の伝わり方。風で起きる波は風向き方向に伝わるが、津波は四方八方に伝わる。湖面に投げた石が360度波紋を作って伝わる波形と同じだ。今回の津波は、翌日に米国西海岸にも来襲。その波は、進みながら水深とともに地形の影響を受け始める。津波は水深の浅い方に曲がる。「屈折」と障害物があるとその後ろに回り込む「回折」、ぶつかると「反射」と変形する。

通常の波は、これらの現象で強さを弱めるが、津波は波長が長いので、強さはあまり変わらない。このため、複雑で脅威的なものとなる。場所によって津波の高さが高くなり何波も押し寄せる＝図4。

三陸リアス式海岸、牡鹿半島、石巻湾などはこうした地形のため、事態が悪化した。気象庁調査では、津波の高さは岩手県釜石9・3㍍、大船渡で11・8㍍、宮城県石巻で7・2㍍である。



③引き波の力

第3の怖さは、津波はある時間が経つと引き始め、その速さと力で多くのものを海に引き込み、数㌔㍍沖合まで流されてしまうことだ。

津波は想像を絶する怖さを持つが、発生確率が低いため非日常的で、体験しても記憶は時間が経つと薄れる。津波に対する正しい知識とその怖さを風化させないよう後世に伝えることが重要である。

◇

同センターは昨年、2008年に多くの犠牲者を出したスマトラ沖地震を機に、子供向けを含む教材本を国内外に向け発刊した＝写真左。

（財団法人 沿岸技術研究センター　八尋明彦）

発行：丸善プラネット

「くしの歯作戦」横軸15道 迅速復旧

災害時は避難から救援、復旧、復興へのあらゆる場面で真っ先に道路網の確保が求められる。過去最大級の甚大被害で壊滅状態になった各地の道路網を短期間で応急復旧させた官民共同チームの奮闘は、海外の救援組織やメディアからも賞賛されている。

国土交通省によれば通行不能になった道路は高速道路15路線、国道161区間（95区間は都道府県管理）、都道府県道など499区間。特に太平洋岸の国道45号は津波で5つの橋梁が流され、路面が陥没して寸断された。

国交省の緊急災害対策本部は、災害時協定を結ぶ社団法人日本道路建設業協会など道路関連団体、企業へ可能な限り人員、建設機器・資材を集めて応急対策支援に当たるよう要請した。

国交省の専門家で結成し被災地に緊急派遣する「TEC－FORCE」や地方公共団体など、100を超える官民共同チームが被害調査、ガレキ排除など道路啓開、迂回路づくりに従事した。

東北地方整備局を中心としたチームが最優先したのが「くしの歯作戦」だ。自衛隊、警察、消防などの緊急支援が早急に太平洋岸へ展開できるよう、東北地方中央を南北に貫く東北道、国道4号の縦軸ラインを確保し、太平洋岸の国道45号、国道6号へアクセスする15ルートの東西横軸ラインを「くしの歯」状に通じさせる応急復旧工事だ。

震災翌日の3月12日に東西11ルート、15日に15ルートを通し、18日に国道45号の大部分を一般車両も通行可能にした。震災1カ月後には原発事故規制区間以外は、ほぼ走れるようになった。

道建協など道路関連約120団体と加盟企業は、復旧作業と並行して独自に避難所や被災地区へ救援物資を大量に送り込むなど、さまざまな支援活動も繰り広げた。

東北地方整備局道路部は「道路網を早期復旧でき海外からも評価されたのは、災害時の特例として民間企業に総力を挙げスピーディに工事に参加してもらえる体制を採れたことが大きい」と話す。

◆

日本道路建設業協会の主な支援活動は次の通り。

【石巻市へ】投光器20／バルーンライト2／発動発電機36／軽油440㌔㍑／散水車10／仮設トイレ100／ブルーシート100／白布1000／2㌧給水車1／1㌧給水タンク4

【釜石市へ】発動発電機10／バルーンライト10／仮設トイレ60／まき2㌧／炭150箱

【気仙沼市へ】仮設トイレ431／ガスボンベ147

【相馬市へ】日用品・食料4㌧車2台／10㌧車1台

【大槌町へ】コンパネ100枚／発動発電機1／ケーブル60㍍／コード10㍍／投光器5／ビニールテープ10

【南三陸町へ】水5㌧

他に多賀城市、陸前高田市、仙台市、宮古市、久慈市、山元町、新地町、田野畑村にも同様支援品を送っている。

社団法人 日本道路建設業協会

東水戸道路の応急復旧工事

M9.0大地震 世界4番目

3月11日14時46分頃に、三陸沖を震源とするマグニチュード（M）9・0という巨大地震が発生した。昭和35年のチリ地震（M9・5）、39年のアラスカ地震（M9・2）、平成16年のインドネシア・スマトラ沖地震（M9・1）に次いで、観測史上世界4番目の規模となる超巨大地震。

東日本の太平洋岸では、M7・5～M8・0の宮城県沖地震の30年以内の発生確率は99％と評価されていたが、今回のように三陸沖～茨城県沖に至る広い範囲で一気に発生する巨大地震までは予測できていなかった。

今回の地震では、位置によって10mをはるかに越える、そして、強烈な津波が襲い、東北地方から関東地方の太平洋沿岸部において甚大な被害を受けた。死者・行方不明者が2万7千人と、平成7年の阪神淡路大震災の4倍以上という激甚な災害。

M9・0といってもイメージがわかないが、地震のエネルギーで評価すると、Mが1大きくなるとエネルギーは約32倍になるという。このため、6千人以上が亡くなった平成7年の阪神淡路大震災はM7・3であるので、今回の地震のエネルギーは、阪神淡路大震災の250個分以上に換算される。地震断層は幅500㌔㍍にもおよび、このため非常に広い範囲に影響。さらに、最大震度6強を観測する地震を含めて、マグニチュード5以上の余震が400回以上発生し、毎日のように緊急地震速報が発信されるなど、従来経験したことがない地震の状況や災害の規模となっている。

ソーラー発電型浄水 避難所に助っ人

東日本大震災と津波による災害で壊滅的な被害を受け、住民の半数以上が避難所で暮らす宮城県南三陸町（佐藤仁町長）では、役場とともに7割の住宅が津波でほぼ全壊したため、行政機能もままならず、電気や水道の復旧も困難な事態が続いている。こうした状況下で、住民の生命を守り維持するために最も基本となる飲料水を、現地で移動型の浄水装置により提供するボランティア活動が精力的に展開され、現地の切実な要望と期待に応えて来ている＝写真。

大震災発生から10日後の3月21日、エスイーバイオマステクノ社製の移動型・ソーラー発電型・浄水器を積み込んだ4㌧トラックが、山口市から南三陸町の歌津中学校に到着し、直ちに原水の川の水を安全な飲料水とする活動に取り掛かった。

本来この装置は、アフリカなど電気・石油の利活用が困難で、水事情の極めて悪い国々の住民の命と健康、生活を守るために開発されたものだが、この南三陸町のように、水道施設が破壊され電気・ガス・石油などのエネルギー源が皆無となる大災害の被災地において、緊急的な飲料水を供給する有効な手段となることが、今回の活動を通じて実証された。

このソーラー発電型装置の生み出す毎時500㍑の浄化水は、約600人の歌津中学校の避難者と、近隣の被災者の方々に必須な生活水として大変喜ばれ、また機械操作も難しくないため、数日後からは、地元青年団の方々に運転委託されている。

東日本大震災 特別編集

列島保全への課題 ― 総集編

わが国、国土のすがた

ハンディ9項目 脆弱国土の制約

立ち上がれ！日本人

東日本大震災では、人知を超えた大規模地震と津波が日本人を襲った。

日本は、美しい四季の移り変わりもある素晴らしい国土だ。

しかし、わが国の国土はアメリカやイギリス、フランス、ドイツなどの国々にはない厳しい自然条件を合わせ持ち、他国に比べ9つの大きなハンディキャップを背負っている。厄介なことに、このハンディキャップは、二重↗↗にも三重にも重なって日本人の歴史に大きな影響を与えてきた。我々はこの厳しい脆弱国土の上で、制約を受けながら暮らしている。

大震災を機に、日本人は改めてわが国の国土のすがたを再認識しよう。その国土観は、次の世代、またその次へと引き継いでいく、教育として残さなければならない。

① 南北2000kmの細長い列島

日本列島は南北2000キロメートル、東西2000キロメートルに及ぶ最大幅約250キロメートルの細長い形状で、フランスやドイツが円形に近いのに比べ、特異な形をしている。これは、地域と地域を結び互いに連携しようとすると、長い道路や鉄道が必要になることを意味する。

円形に近い国土のフランスなら、首都パリから全方位へ道を伸ばせば、国の基盤となる道路網は出来上がっていくが、日本においては、そうはいかない。東京と青森や新潟、山口などを道路で結ぼうとすると、どうしても難事業になる。

② 海峡を挟み四島に分断

わが国の陸地は海峡によって北海道、本州、四国、九州の四島に分断され、それ以外は多数の島嶼部で構成されている。これらの地域を連絡する交通手段は船か航空機に限られ、道路や鉄道で結ぶと、大規模な橋を架けるか大規模トンネルを掘るしか方法がない。

③ 脊梁山脈が中央部縦貫

列島中央部を2000メートル級の脊梁山脈が縦貫しているため、太平洋側と日本海側を結ぶ道路を造る場合、長いトンネルや橋が多数必要になる。高速道路延長に占めるトンネルや橋など道路構造物延長の比率（構造物比率）は、米国のインターステイトハイウエイ（7%）、フランスの都市間高速道路（4%）、ドイツのアウトバーン（10%）に比べ、日本の高速道路は33%と圧倒的に大きな数値となっている。当然、建設費は余計にかかり、平地ばかりで直線的に道を敷設できる国とは、明らかに異なる。

この急峻な脊梁山脈が幅の狭い本州を南北に振り分けているため、わが国の河川は数が多く（流域面積が狭く）、急勾配で極めて短い。降った雨はすぐ海に出てしまい、洪水が起こる時は一気に大量に水が流れて氾濫を起こす特徴がある。

フランスのパリなどは河川の勾配が緩く、流域面積が広いので、下流で雨が降っていても上流で降っていることはほとんどないため、一気に水かさが増して氾濫することはない。

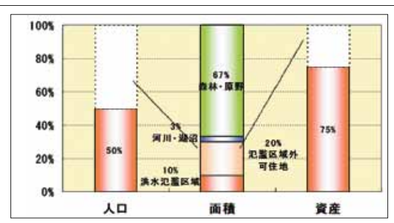
④ 狭い平野に洪水の危険

わが国は西欧に比べ極端に可住地が少ない。ドイツは日本より国土面積はやや小さいが可住地面積は日本の2倍以上ある。国土面積が日本の3分の2しかないイギリスも可住地面積は日本の2倍、フランスに至っては日本の4倍近い。しかも、この狭い平野に東京や大阪、名古屋など多くの大都市が立地していることに大きな問題がある。

「流域面積が狭く急勾配で極めて短い」というわが国河川の特徴と合わせて考えれば、洪水のときだけ、ドンと水を流す河川の河口部に町が開け、大都市となっていることを意味する。

洪水時に氾濫の危険がある地域を、氾濫区域というが、日本の大都市は氾濫区域と殆ど重なっている。ヨーロッパの各都市が、かなり上流の河岸部に立地しているのに比べ、大きな違いだ。この結果、わが国では氾濫区域の面積は国土の10%しかないのに、人口の50%、国民の資産の75%が集中しているのだ＝下の図。

（左の7面に続く）



⑤ 軟弱地盤に大都市集中

わが国の大都市の多くは「軟弱地盤」の上に造られている。約5000年前の縄文時代に遡ってみると、関東地方全域も大阪のある河内平野も、大半が海の中だった。それが広大な平野になったのは、激しく流れる河川が上流から土砂を運び続けた結果である。長い年月をかけて出来た新たな陸地も、もとは海だったから、地盤が緩いのは当然なのである。

対して欧州の都市は、軟弱地盤の上に築かれていることはまずない。土地は氷河期には氷に覆われており、氷河が退行したとき表面の土が削られてできた平野である。西欧の大都市の地盤は極めて強固なのだ。

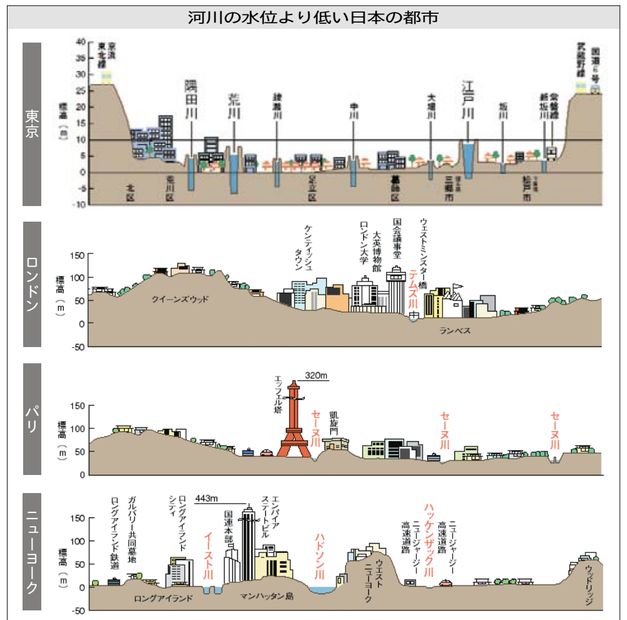
⑥ 地震が頻発 世界でも稀

スマトラやニュージーランド、チリなど近年だけでも大きな地震がたびたび起こっているから、世界中で日本と同じような地震が起きていると錯覚をしがちだが、イギリス、フランス、ドイツなどヨーロッパの主要部分、アメリカの東海岸、中国のかなりの部分は、大地震は発生しない。

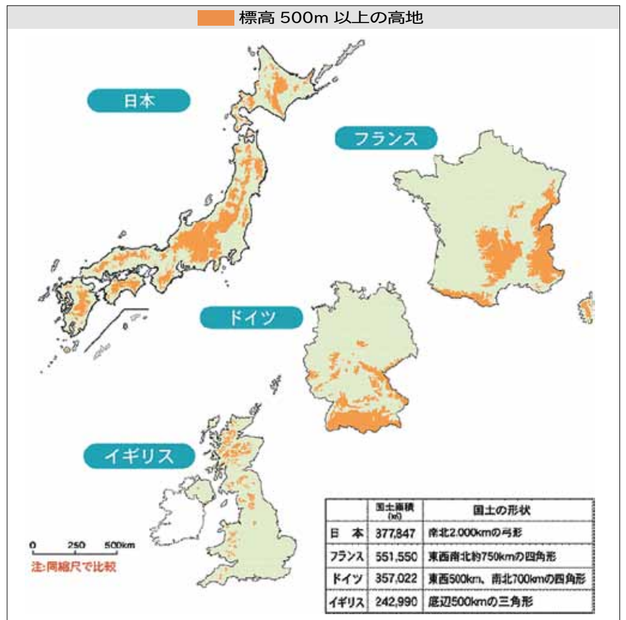
わが国は地震が頻発する地面（プレート境界線）上に位置しているので、国土面積は世界の地表面積の0・25%しかないのに、マグニチュード4以上の地震の約10%が日本で発生し、マグニチュード6以上の地震は全世界の約20%が日本で発生しているのだ。

ロンドンやパリ、ベルリンなどの都市は、軟弱地盤上になく、地震は起きない。これは二重の意味で彼らが優位であり、私たちが不利であることを意味する。わが国では軟弱地盤がいつ揺れるかもしれないと想定して、橋やビルや堤防を築かなければならないのだ。

パリ郊外の高架道路を見ると、柱が細くすらりとしている。日本の高架道路は支える柱がかなり太い。これは、外国のほうがデザイン的に洗練されているという問題ではなく、国土の特徴が要請する必然の形なのだ。



（国土交通省・財団法人国土技術研究センターＨＰより）



	国土面積（㎢）	国土の形状
日　本	377,847	南北2,000kmの弓形
フランス	551,550	東西南北約750kmの四角形
ドイツ	357,022	東西500km、南北700kmの四角形
イギリス	242,990	底辺500kmの三角形

（財団法人国土技術研究センターＨＰより）

⑦⑧ 台風通り道 豪雨と強風

日本は地球総平均の2倍以上の年間降雨量があり、梅雨末期と台風期に集中して降る特性を持つため、しばしば大水害が発生する。しかも台風の通り道に沿うように日本列島が展開しており、豪雨と合わせて強風の影響を直接受けるハンディキャップも持っている。ちなみに、パリをハリケーンや台風、サイクロンが襲うことはない。

実はわが国はそれほど水資源が豊かと言うわけでもない。梅雨時と台風時に集中して降る雨を、日本中の約2000の小さなダムが蓄えているに過ぎない。しかもダムの合計貯水量は300億㌧で、中国の三峡ダム一つ分の貯水量と同規模でしかない。日本各地で毎年、渇水問題が起こるのはこのためである。

⑨ 豪雪地帯に大都市存在

今冬の年末年始、記録的な大雪が山陰地方を中心に日本海側を襲い、交通麻痺、ライフラインの切断、集落の孤立、漁船の転覆、農業被害など、甚大な被害が発生した。

東京や大阪など太平洋側の地域に暮らしていると、実感することは難しいが、日本の国土面積の約60%は積雪寒冷地域にある。札幌や青森のように、年間累加降雪深が4㍍超の豪雪地帯に百万都市や五十万都市が存在する国は、日本のほかにはまずないのだ。

農業被災の甚大さと風評被害

東日本大震災に被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

今回の地震の対応について、農業分野からひと言意見を述べさせていただきたい。

農業分野での被害は2種類に分かれる。一つは地震や津波による物理的被害だ。具体的には津波による農地の水没、水没解消後の塩害、地震による地盤沈下、農業用水施設の損傷などである。

発表では2万㌶の水田が水没し、水没した水田では塩害が発生するので水田表土を客土しない限り稲作はできない。広範囲に客土を伴う土地改良事業は数年かかるものと思われる。

さらに、水没しなくとも農業用水施設の損傷により冠水できない水田では稲作ができず、該当面積がどの程度になるか、現時点では数字は発表されていない。しかも被害エリアは岩手、宮城、福島だけでなく茨城、千葉と広範囲に及んでいるが、この被害については殆ど報道されていない。

東日本では通常の冠水時期は4月で、5月に田植えをするが、時期をずらせば良いというものではない。稲にはそれぞれ品種特性があり、早稲、中手、晩生の品種切り替えは種籾の手配の問題もあり簡単にはできない。

水田や畑以外にも物理的被害であまり報じられていないことがある。それは採卵鶏の被害だ。卵の価格上昇と品不足の原因は2つある。一つは鶏舎の倒壊で、もう一つは鶏の飼料原料となる米国産トウモロコシが荷役できなくなった鹿島の港湾被害である。

今後、パナマ運河を通る5万㌧級の貨物船の港湾整備にはかなりの時間が必要になる。

もう一つの被害は放射能による物理的被害と風評被害である。現在も放射能が検出されている葉物野菜や生乳を中心に出荷停止措置が取られている。

また、当初から予想されていたが、出荷停止措置が取られていない品目でも風評被害が生じている。国内だけでなく、海外でも続々と日本の農産物の輸入禁止措置が取られている。

これら農業に関する被害だけでも多様な形態がある。予算があれば短期間に解決できる物理的被害、予算が膨大にかかりさらに時間もかかる物理的被害、予算と時間があっても簡単に解決できない風評被害。物理的被害は見通しが立つが、一番厄介なのが見通しの立たない風評被害だ。

BSE問題の時、畜産農家を自殺にまで追い込んだのは国内消費者だった。国は牛肉の安全を保障したのに消費者は牛肉を買わなかった。今回の放射能問題で最後まで解決できないのが、農産物の風評被害ではないかと予想する。

「安全」と「安心」の違いを理解し、自己の欲望を理性でコントロールする賢い消費者になれるかどうかが今、問われている。

（原耕造・NPO生物多様性農業支援センター理事長）

地域の宝もの

糠谷　真平
国民生活センター顧問

東日本大震災と三陸海岸

近来まれにみる大地震が東日本を襲った3月11日の午後、私は福祉学術文化振興財団の用件で多摩センターのベネッセの社屋にいた。相談も終わりに近づいた頃突然ガタガタとかなりの揺れが起こった。

大きな地震ですねと話はしたが、その後の展開は私の想像を超えていた。

何よりも気にかかったのは三陸海岸を襲った大津波のことであり、中南部のリアス式海岸は通常は風光明媚な良港をもたらしているが、地震の際は波を増幅させて甚大な被害をもたらす。報道でも宮古、釜石、気仙沼など港湾都市の被害の大きさが報じられていた。

特に、気仙沼とは30年近くお付き合いがあり、当時気仙沼市役所職員だった人とは今も懇意にしている。すぐにでも電話をしたかったが、取り込み中に電話するのもはばかられ、2、3日たってから電話を試みた。

しかし、何度かけてもブーブーという話し中のような反応しか返ってこない。大波が家の中に入ってきて受話器が外れたのではないかと余計な心配もしてしまう。

そうこうしているうちに地震後1週間たった18日、電話をしてみると通常の呼び出し音が鳴り、奥様の声が返ってくるではないか。家が港から少し離れたやや高いところにあり、難を免れたということだった。地震の際は地理的条件がかなり決定的な要素になる、ということだろう。

もう一つは、気仙沼唯一の酒蔵男山本店の状況だ。ここは港に近いこともあり、事務所は破壊されたが、蔵の方は何とか残っていて、今年の酒もある程度出荷は出来るらしい。この蔵の伏見男山という大吟醸は私の好きな銘柄の一つだ。それが残っているかどうか分からないが、蔵の方が落ち着いてくれれば、消費することで応援したいと思っている。

東日本大震災 特別編集

牡鹿で最大5.3㍍東南東にズレ、沈下1.2㍍

地震や津波など自然災害が発生した時、重要な役割を果たすのが地図である。観測で把握した災害状況を地図に落とし込み、それをもとに、人命救助や被災者支援、復旧・復興計画などが練られる。国土の領域を確定し、土地を測量するにも正確なデータ収集が不可欠だ。東日本大震災でも、GPS衛星や先端技術を駆使してデータが集められ、被災状況が刻々と判明している。しかし、観測の基準点となる設備も被災したのだ。復興への歩みは着実に始まっている。データ収集の中核を担う国土交通省国土地理院に、被害の実態と、今後の復旧への課題などを聞いた。

GPS衛星の連続観測を行う電子基準点（GPS連続観測点）は2010年10月現在、全国1240カ所に約20㌔㍍間隔で設置。各種測量の基準点として活用するとともに、地震調査研究、火山噴火予知研究のための広域地殻変動監視など、全国の地殻変動を監視している。

GPS観測点データで解析

電子基準点の解析によって、地震がどのような地殻変動を起こしたか、捉えることができる。地殻変動データは、地震を引き起こした地下の断層の分析や、測量への影響を評価するため活用される。

3月11日14時46分に発生した東日本大震災（M9・0、最大震度7）では本震発生時、最大で宮城県石巻市の電子基準点「牡鹿」が、水平方向（東南東方向）へ約5・3㍍動き、上下方向に約1・2㍍沈下する極めて大きな地殻変動が観測された。

宮城県南三陸町の電子基準点「志津川」でも、東南東方向へ約4・4㍍動き、約75㌢沈下したことが分かるなど、北海道から近畿地方にかけて広い範囲で観測された。

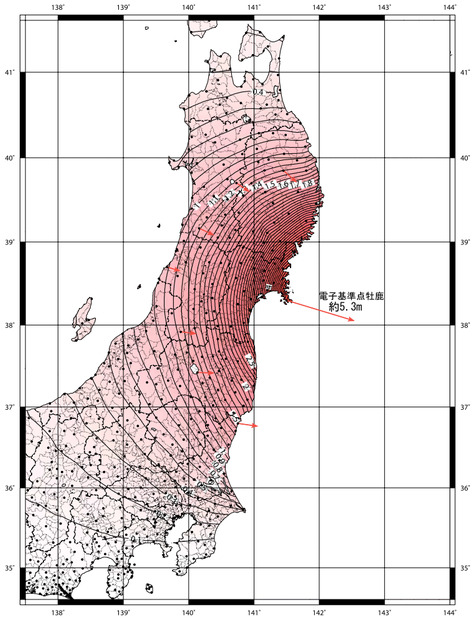
地震後も地殻20㌢超す変動

本震の後も、本震時の変動に比べると僅かだが、緩やかな地殻変動が続いている。島根県「三隅」の電子基準点に対する地殻変動を計算すると、東北地方を中心に東向きの地殻変動が継続して見られるという。電子基準点で観測された本震後の変動の大きさは、3月19日までに、大きいところで20㌢を超えている。

地震後に地殻変動が継続する現象は、大規模な地震の後によく見られる。余震に伴う変動に加え、地震の震源域や周辺で発生する断層面の滑り（余効滑り）が原因の一つとして考えられるという。

今回の大地震で、電子基準点で観測された地殻変動データから、国土地理院は震源断層モデルを推定した。速報のため変更される可能性はあるが、断層面の形状は、日本海溝に沿った2枚の長方形に近く、総延長約400㌔㍍、幅約80～85㌔㍍、上端部の深さが約10㌔㍍で、西に傾き下がる断層面が推定された。

（左の9面に続く）



⇦本震に伴う右＝水平方向、左＝上下方向の地殻変動

津波の浸水561平方㌔㍍、山手線内の9倍

左は岩手県陸前高田市の高田松原（1977年撮影）。右は大震災後の惨状。（2・3面に地上からの写真）

（右の8面から続く）

宮城県の浸水6県で最広域

西側の地塊が東側に対して乗り上げるような逆断層運動が起こったと考えられ、すべり量は推定、北側約28㍍、南側が約6㍍。断層モデルから推定されるモーメントマグニチュードは約8・8。滑り分布から計算した上下変動によると、岩手県から茨城県にかけての太平洋沿岸で大きな沈降が想定されるという。

また、航空機や衛星で撮影した画像を使い、大津波で浸水した地域の面積を分析して、これまでに、東北から関東の太平洋沿岸の結果をまとめた。それによると、青森県から千葉県にかけての6県で、浸水地域は561平方㌔㍍に及び、これは東京のJR山手線の内側の約9倍に当たるという。

県別では、宮城県が327平方㌔㍍で最も広く、次いで福島県112平方㌔㍍、岩手県58平方㌔㍍、青森県24平方㌔㍍、茨城県23平方㌔㍍、千葉県17平方㌔㍍。市町村別では、宮城県石巻市が73平方㌔㍍、福島県南相馬市39平方㌔㍍、宮城県東松島市37平方㌔㍍、同県亘理町35平方㌔㍍など。

特に仙台市若林区は区の面積の60％余りが浸水、亘理町や宮城県岩沼市も、行政区域の半分近くが浸水した。

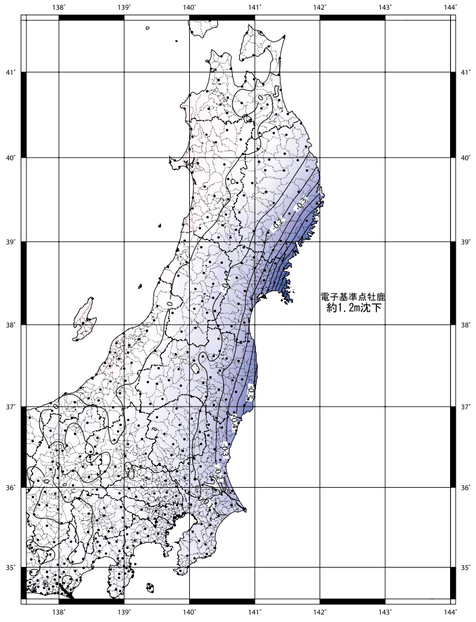
基準点も被災再整備が急務

概括的に言えば、東北地方は東南東に最大5㍍前後ずれ、地域により1㍍前後地盤沈下。太平洋沿岸各地で、大津波による浸水が広範囲に及んだ。

別の問題も発生している。新たな街づくり、復旧・復興から国土再生への計画策定にも、正確な地図は欠かせない。しかし、大地震による地殻変動の影響で、観測の基準点そのものも動いたのだ。

国土地理院は定期的に観測結果を公表してきたが、3月14日以後、地殻変動が大きかった地域の基準点測量成果（電子基準点、三角点、水準点）の公表を停止した。その範囲は甲信越、関東、東北の全域に及ぶ。

災害時にどう避難すれば安全かなど各市町村がハザードマップを改定したり、地域の復興・再生計画策定のためにも、観測点の再整備が急務となっている。国土地理院は「早急に電子基準点の測量成果を改定し、三角点や水準点も改測作業をして、基準点測量成果を改定したい」と話している。



国土交通省 国土地理院 Geospatial Information Authority of Japan

新東名、静岡県内区間162km 来年度開通へ

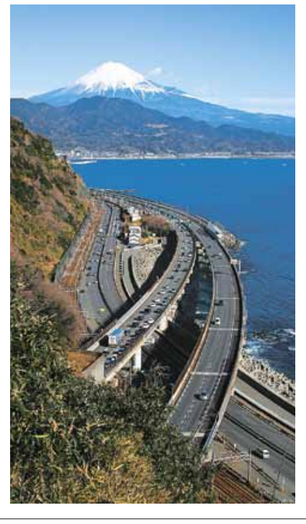
新たな開通を目指す新東名高速道路の建設が、静岡県内区間の来年度完成に向け、同県内で順調に進んでいる。特に、東日本大震災で東北道、常磐道が早期復旧でき、道路ネットワークが救援、復旧に大きな支えになったことが実証されたばかりで、新東名が防災面で果たす役割に、期待が高まっている。

慢性的渋滞にダブル大動脈

新東名は、1969年開通の東名、名神両高速道路が、日本経済発展に伴う交通量の増大で慢性的渋滞状態になっており、施設や機能の老朽化も目立つため、東京圏～中部圏～関西圏を結ぶ大動脈の抜本的サービス改善、ダブルネット化による信頼性向上を目指して計画された。

旧日本道路公団民営化の際、特殊法人によるむだ遣いの例として一時、計画廃止論も出たが、沿線各都市や学識者らが日本の将来に不可欠とし、新東名・名神計画は経費節減に努めながら進められることになった。

静岡県内の新東名は、御殿場ジャンクション（JCT）～引佐JCT～三ケ日JCT間162㌔㍍を⇦



新東名と中部横断自動車道とが交差する吉原JCT（上）と、東西を結ぶ幹線道路が集中する「薩埵峠」付近（右）

東名の補完を防災面も期待

静岡県交通基盤部は、新東名の早期開通が必要な理由として、現東名の渋滞が同県内で年々激しくなり、年間1100回（NEXCO中日本08年資料を基に同県で作成）も渋滞が発生していることを挙げる。同県は隣接する神奈川、愛知県とともに製造品出荷額が全国トップグループ（3県年間計約85兆円＝全国の4分の1）で、貨物・旅客輸送とも、東名利用率が極めて高いためだ。

一方、防災面で新東名への期待が高まっているのは、一昨年8月の駿河湾地震で、同県牧之原市内の東名上り線で盛り土が崩落し、焼津～袋井間が5日間⇦NEXCO中日本が先行整備区間として工事を進めており、橋梁やインターチェンジ（IC）の大部分ができ、2012年度完成が迫っている。

通行止めになった際、迂回路の国道1号、150号などが大渋滞し社会経済活動、住民生活が混乱したことがきっかけだ。緊急対策として、走行路がほぼ完成していた新東名の島田市内の一部区間を国道1号の迂回路として開放、万一の際に東名の補完機能を果たすことが実証された。

静岡県は東海地震の恐れが指摘される。特に静岡市の薩埵（さった）峠付近は、海岸の狭い範囲に東名、国道1号、JR東海道線が折り重なるように走っており、東海地震でこれらが麻痺すると、太平洋岸の東西交通が危機に陥ることが危惧される。

新東名は現東名より山側を走るため、津波被害も受けにくいことが改めて東日本大震災を機に確認され、同県とNEXCO中日本は12年度開通に一層力を入れる旨を申し合わせた。

第32号　道21世紀新聞　Route Press 21st.　2011年（平成23年）5月　10

東日本大震災 特別編集

国土学事始め

大石久和
早稲田大学大学院
客員教授

「新しいことを尊ぶ」文化力

わが国では、数多い神社が式年遷宮の伝統を持っています。もっとも有名で、もっとも大がかりなのが、伊勢神宮の式年遷宮です。なぜ、まだ十分に使用に耐える社殿を一新するのかについては、技術の伝承のためであるとか諸説があるようですが、「神道の精神として、常に新たに清浄であること（常若（とこわか））を求めたため」というのがもっとも説得力があるように思えます。

建物がいまだ使用可能の状態であっても、老朽化することは汚れることであり、神の生命力を衰えさせることとして忌み嫌われたため、建物を新しくすることにより神の生命力を蘇らせ、活性化することになると考えられたのではないか、というのです。

しかし、たとえばパリの街もその面影を残したまま大切にしていますし、最近ベルリンが再開発されましたが、幹線街路沿いでは昔の街路景観を維持しようとしました。このようにヨーロッパでは、古くなることは汚れることなのではなく、むしろ尊いことなのです。

これを、「彼らは昔からの景観を大切にするのに、われわれは景観を粗末にする」と非難する人がいますが、その非難はまったく間違っています。自然災害のない彼らは古いものを大切にできるのですが、われわれは新しくなることを喜ばざるを得ないのです。

伊勢神宮などで式年遷宮が行われるのは、とにかく「新しくなる」ことそのものが価値と考えたからと思います。それはなぜかといえば、地震・噴火・風水害などの自然災害を絶え間なく受け続けてきたわれわれは、街路景観など維持したいと思っても、火災や自然の猛威によって簡単に破壊されてしまうからです。これらの経験を通じて、阪神淡路大震災の後がそうでしたが、今回の東日本大震災からも「新しいことを尊ぶ」文化力を発揮して、必ず力強く再び立ち上がることができると信じています。

森と水の癒し里　かつての

現代日本人の観念を根底から覆す衝撃

今回の未曾有の大震災は、われわれ現代日本人の観念を根底から覆すような衝撃を与えた。多くの識者が指摘しているように、この地震は、われわれのものの考え方、もっと大きくいえば世界観に影響を与える。それは、近代的科学主義、技術万能主義への痛烈な打撃である。

「水と緑の土」（富山和子著・中公新書／1974年初版）に、以下のような記述がある。

○○○

□アメリカの社会学者フローレンス・クラックホーンは、ヨーロッパの文化が「人間は自然を征服すべきもの」として育まれたのに対し、「人間は自然に屈服すべきもの」として育まれた文化をメキシコの農民文化に求め、両者の中間的存在、すなわち自然と人間との調和に築かれた文化として日本の文化を位置づけている。

□明治以降の堤防に依存する方式はそれまでの治水には採用されておらず、むしろ戒められてさえいたものである。それまでの日本人の河川観からするなら、川というものはときおり大暴れするものであり、大洪水の氾濫は忍ばねばならないこともあり、水害防備林や遊水池をいかに巧みに配置して備えるかが、治水の主眼とされていた。明治初期の、産業近代化政策のために明治政府が強力におしすめた治水事業にも、舟運が重視されればこそ川に対するこの伝統的な姿勢は、まだ残されていた。

□明治以前の治水工事は、洪水については、中小の洪水は処理するが大洪水はあらかじめ氾濫することを予定している。高水工事が堤防を連続させるのに対し、低水工事は水害防備林や霞堤、乗越堤などを中心にすえ、大洪水はかえって氾濫を許し、むしろ洪水の力を弱めることが配慮された。前者が洪水を「押し込める」方式であるならば、後者は洪水を「なだめる」方式であった。これは、川の自然に対する考え方の違いからきている。

□この時期、河川敷内の水害防備林も、高水工事の目的に反するとの理由からもってのほかとして認められず、堤防に木を植えることさえ禁じられた。そこには自然の機能への徹底した不信感、逆に言えば人間の技術に対する絶大な信頼が見える。

□もしも、高く築かれた連続堤防の一角が決壊したらどうだろう。延々と連なるコンクリートの壁は一変して凶器となり、激流とともに都市に襲いかかることになる。

○○○

畏怖・共生の自然観に戻り復興青写真

今回の大震災で、われわれ日本人はこのような科学技術を万能とする考え方を変えさせられた。復興に当たっては、自然と対立し、自然を人間の都合の良いように改造すること、そのような考えでは対処できないだろう。自然を科学技術で人間の都合の良いようにコントロールできるかの考え方を転換し、これまでの日本人が抱いていたような、自然を敬い恐れ、自然と共生し、自然から恵みをいただいて生きるという自然観に立ち返って検討される必要がある。

いまはまだ、被災の状況が十分には分かっていないが、これから厳密な現地調査が行われれば、被災地域の森林がどういう状況になっているのか、防災に役割を果たせたのか、これからの地域の復興をどう行っていけばよいのか、防災林等の整備はどうしていくのがよいのか等が明らかになっていくことだろう。

「高き住居は児孫（じそん）の和楽（わらく） 想え惨禍の大津波 此処より下に家を建てるな」――岩手県宮古市。明治29年の明治三陸大地震と昭和8年の昭和三陸地震で津波により大被害を被った重茂半島にある姉吉地区の海抜約60㍍の小高い場所にたつ石碑がある。この地区の住民は今回被害を免れた。

復興に当たっては、今回津波が押し寄せた地域には建物を建てず、海岸地域には十分な幅と厚さを持った防災林を設置し、新たに高台に豊かな緑を残して、安全で、快適な町を建設するような復興計画を検討してもらいたい。↖

組手什　製材時の端材活用と林業支援で考案された。棚や間仕切りなどを容易に作ることができる。

半壊道路が6日で復旧

東日本大震災で亡くなられた方々に深く哀悼の意を捧げ、家族、親戚、愛する人を失った方々、被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

マグニチュード9・0という日本の観測史上最大の巨大地震が日本を襲いました。一瞬にして多くの人命と穏やかな生活を飲み込んだ巨大津波が引いたあとに残されたのは、目を覆うばかりの惨状と無慈悲なまでの街の姿でした。

街をつなぐ国道も壊滅的な被害を受けました。市街地はがれきで塞がれ、山間部は崩落し、河川に架かる橋は流出。三陸地方特有の入り組んだリアス地形に、孤立する街をつなぐ国道の寸断で、救援にも向かえないことになります。復旧にはほど遠く、数カ月は断絶されることになるのではないか。

そう思っていた震災3日後の3月14日、「被災沿岸部に

（左の11面に続く）

私の道

NPO法人
ハッピーロードネット理事長
西本由美子さん

原発退避区域から避難生活

東京・御茶ノ水に近い日本サッカー協会の中。うずたかく積まれた救援物資の山に囲まれ、被災地に運ぶ仕分けの作業などに忙しく動き回る西本さん＝写真左＝がいた。

福島県・浜通り、広野町で驚愕の地震に遭遇した。「留め具で固定した大型テレビが倒れ、棚から飛び出した食器は落ちるのではなく、天井から下がった照明器具に、水平に飛んでぶつかった。二度と体験したくない」。自宅は原発の退避区域で立ち入り禁止に。避難所からいわき市の実家へ、そして三男の大学生のいる東京へと、着の身着のままの避難生活が続く。

自宅近くは国道6号はじめ常磐道や主要県道が通るが、震災以前から道路整備は遅れていた。子供たちにとっても危険カ所は多かった。だから「安心出来る安全なまちづくりを」と、ハッピーロードネットの活動を始めた。

「こどもと一緒に未来のまちを考える」フォーラムの開催を続け、昨秋には東北6県をまとめてハイスクールサミットイン東北も開いた。

被災した子供に救援品運ぶ

東京の避難生活でも、被災した東北の子供達のことが頭から離れない。「おばちゃん、元気か」と電話やメールが届く。励ましに突き動かされ、世話になったサッカー協会と一緒に、せっせと救援物資を運び続ける。物資もNPO活動で知り合った全国の仲間から、激励とともに寄せられたものだ。

「ガンバレニッポンのユニホームを着て行ったら、サッカーしたいから皆のユニホームとボールがほしい、と言われた。子供たちが少し元気なのでほっとした」

60歳でNPOから退こうと考え公言してきた。だが「この地震で引退どころか、続けなければならないと思った」。

被災地の惨状には絶句するばかり。「地方は車とガソリンと道路が無ければ病院や学校、買い物さえ行けない。それほどインフラ整備は身近な問題。復興に向け現場の生の声を出来る限り訴え続けたい」

にしもと・ゆみこ　「常磐道を応援する女性の会」代表などを務める。現在理事長を務めるNPOは2009年8月、広野町、双葉町と3者で、国交省磐城国道事務所と植樹帯への花植え、美化清掃などの活動をする「ボランティアサポートプログラム協定」を締結した。

「緑の募金」復興へ緑化支援

全国植樹祭（和歌山県）の記念で同県の道の駅で予定される巡回写真展（展示例）

社団法人　国土緑化推進機構　National Land Afforestation Promotion Organization

2011・国際森林年

避難者に「組手什（くでじゅう）」寄贈

↖福島第一原発の事故が、沈静化の方向性が見えなければ、本格的な復興対策ということにはならないだろう。一刻も早い沈静化と、適切な情報開示を願う。

なによりも今、避難所生活で日々不自由な生活を余儀なくされている多くの被災者への支援を含め、国民全体が力を合わせて復旧・復興を図っていく必要がある。

国土緑化推進機構と都道府県緑化推進委員会は、大きな被害を受けている被災地域の復旧・復興に向けて、「緑の募金」により地域の防災林等の森林整備や拠り所となる居住地域周辺や学校周辺の緑化を支援することとしている。

また、国土緑化推進機構は、復旧支援として避難所などにおけるプライバシー保護のための間仕切りや、収納棚などを、簡易に組み立てることができる組み立てキット「組手什（くでじゅう）」を寄贈するため、「緑の募金」の使途限定募金として位置づけて、NPO等と連携して取り組んでおり、協力を呼びかけている。

緑の募金
http://www.green.or.jp/
東日本大震災復興支援に向けた「緑の募金」をお願いします。
インターネットで募金
midorinobokin.net

「国際森林年」に開く植樹祭

第62回全国植樹祭が5月22日、和歌山県田辺市たきない町の新庄総合公園を主会場に開催される。テーマは「緑の神話　今　そして未来へ　紀州木の国から」。全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林や緑への国民的理解を深めるため毎春、天皇皇后両陛下ご臨席のもと、社団法人国土緑化推進機構と開催県が共催で行う国土緑化運動の中心的行事。今年は国連の定める「国際森林年」でもあり、関係者は一層力が入る。

同県では1977年以来2回目の開催。古来「木の国」と呼ばれ照葉樹、落葉樹、針葉樹が優良な木材や紀州備長炭などを生み、自然と県民の暮らしが創出した森林と木の文化が受け継がれている。

近年、地球温暖化問題で、森林の管理や環境保全が叫ばれ、関係者は「豊かな森林と木の文化を次代を担う子どもたちに引き継ぐため、森林の豊かさや木の文化を学び、緑を大切にする気持ちを高める契機にしたい」と話す。

国土緑化推進機構は一昨年、全国植樹祭60周年を記念して、写真集を刊行した。写真からは、戦争や開発で荒れた裸の山や失われた緑が、自然を守る人々の緑化への努力で、美しい緑の山々に戻ってきた姿がよく分かる。

同機構と本紙は、全国植樹祭が和歌山県で開催されるのを機に、植樹祭の前後に、写真集の中の代表的な写真を展示する「日本列島の森林―かつての姿」巡回写真展を、同県白浜町の道の駅「志原海岸」など、県内各地の「道の駅」で順次開催する予定だ。

東日本大震災で、道の駅の防災拠点化や緑化の重要性が再認識された。同機構の青木正篤常務理事は「写真展を通して、自然災害への備えや環境保全、国土緑化の重要性を理解してもらいたい」と話している。

ネット通じ世界に驚き

（右の10面から続く）

延びる国道14本が復旧」と国土交通省が発表しました。東北中央部の動脈国道4号から三陸沿岸部の街へ「くし状」にアクセスする国道が復旧したのです。緊急輸送路をいち早く確保できた恩恵は計り知れなかったことでしょう。東北地方整備局の「くしの歯作戦」と呼ぶタスクフォースのチカラです。

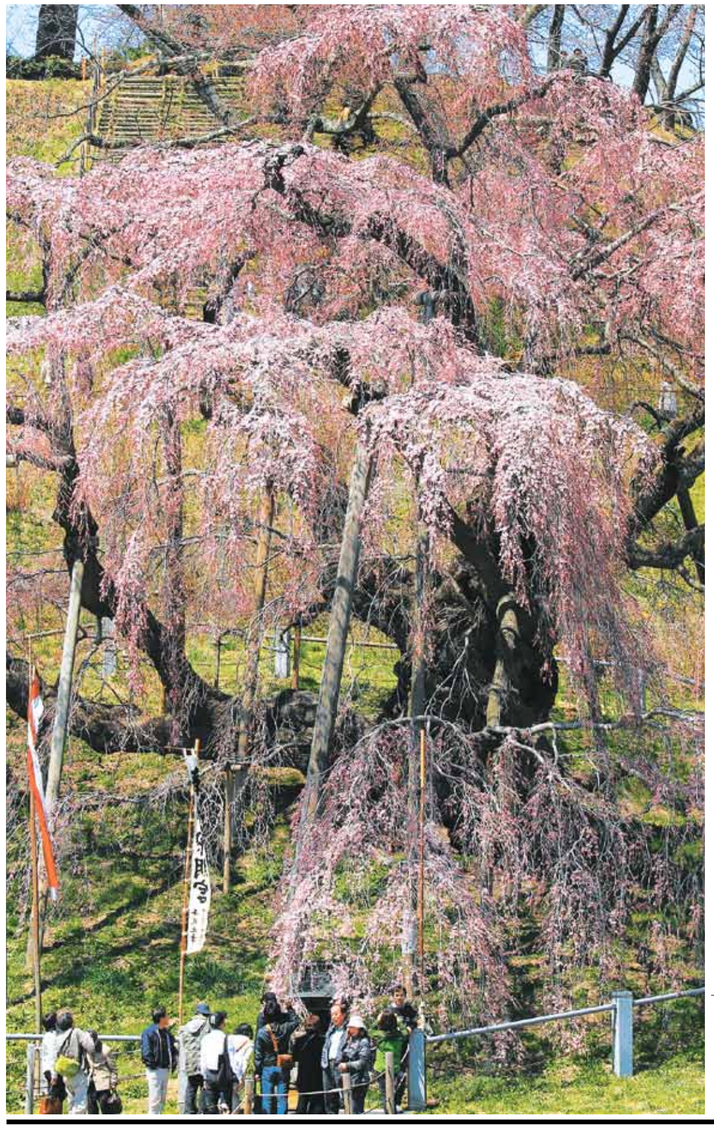
17日には震災から1週間も経たない6日後、半壊したはずの常磐道が復旧します。NEXCO東日本が発表した復旧の写真は瞬く間にネットを駆け巡り、偉業ともいえる仕事に対し、大きな尊敬と賞賛が寄せられました。

世界へ発信された報道の中で数少ない「日本の信頼」を勝ち得たのは日本の政治指導力ではなく、批判の多かった日本の道路業務とその仕事を完遂した方々であったことを書き添えておきます＝写真はNEXCO東日本提供。

（国道愛好家　松波成行）

東日本大震災 特別編集

千年桜　耐えて見つめて　春爛漫



三春滝桜　福島県田村郡三春町のホームページによると「4月15日に開花。震災による被災もなく、元気に頑張っています」。エドヒガン系の紅枝垂桜（ベニシダレザクラ）で1922年（大正11年）に国の天然記念物指定。日本三大桜の一つで岐阜県の淡墨桜とともに東西の横綱。樹齢は1000年以上と言われる＝**写真提供：渡辺勝さん**

全国の「道の駅」で支援募金活動の輪

被災地への支援活動は、全国各地の道の駅でも高まっている。

岐阜県土岐市の道の駅「土岐美濃焼街道」の駅長丹羽正孝さんは3月末、ライトバンいっぱいに被災地支援の食品類を積み込み、岩手県宮古市田老の道の駅「たろう」を訪ねた。この地区は万里の長城と呼ばれる巨大防潮堤も乗り越えた津波で壊滅的被害を受けたが、高台の「たろう」は奇跡的に難を逃れた。しかし、市の一時避難所に隣接しているため、詰めかける被災者対応でてんてこ舞いしていた。

食料品は新潟、沖縄など10以上の道の駅から託されていた産品交流用の商品。「地域と連携、道の駅同士との連携は使命なのだから」と話す。

「土岐美濃焼街道」を含む同県東濃地域の道の駅10駅ではレジ横などに復旧・復興支援の募金箱を置いている。

「木曽ならかわ」（長野県塩尻市）、「くんま水車の里」（静岡県浜松市）、「にしお岡の山」（愛知県西尾市）、「いが」（三重県伊賀市）など道の駅10駅でも、中部ブロック「道の駅」連絡会の呼びかけで募金活動中。「かなん」（大阪府河南町）や「豊前おこしかけ」（福岡県豊前市）＝**写真**、「くにさき」（大分県国東市）、「かまえ」（同県佐伯市）などでも募金箱が置かれている。「豊前おこしかけ」の白石道雄駅長は「1万円札を入れる人もいて胸が熱くなりました」と語っている。

橋げた流出・破壊　官民奮闘の短期復旧

東日本大震災で甚大な被害を受けた道路網が驚きの速さで復旧したが、主に津波で破壊されたり流出した橋梁の応急復旧でも、国土交通省や地方公共団体と民間の橋梁業界が総力を挙げて結集。臨機応変に献身的に動き、各地域も全面的に奮闘を支えた。

国交省東北地方整備局が震災直後に調べたところ、太平洋岸を走る国道45号は特に津波被害が激しく、気仙大橋（岩手県陸前高田市）や小泉大橋（宮城県気仙沼市）など5つの橋梁が橋げたごと流出したほか、県道や市町村道などでも太平洋沿岸各地で12の橋梁が大打撃を受け、通行不能になった。

国交省の出先機関や地方公共団体は、災害時には道路・河川・港湾などの関係業界と協定を結び、通常の事務手続きを省略して被害状況の把握、応急修理にあたる体制を取っている。

鋼橋業界で組織する社団法人日本橋梁建設協会は直ちに東京・西新橋の本部に「災害対策本部」を立ち上げた。それに呼応し、会員会社が一斉に、自社が建設や保守を手がけた橋梁現場へ自主的に点検調査チームを送り込み、被害状況の調査に速やかに着手した。

被災地への救援物資の輸送にも、道路網確保が最優先と誰もが認識しているため、点検結果をもとに国や自治体担当者と相談、可能な応急修理に着手。

津波で橋台背面の盛り土が流出してしまった国道45号の二十一浜橋（気仙沼市）などでは、災害時用に会員会社が備えていた仮設橋を設置し、10日目という異例の短期間で開通させた。

同協会は、今回の被害はけた外れに大規模で点検調査地点までの道路網が寸断され、必要なガソリン、宿泊場所、食料などの調達が至難だったのが悩みだったという。

同協会と会員会社が被災地に投入した点検調査チームは、4月下旬までに計938組、延べ2281人に達し、3371橋の被害点検を終えた。今後、本格復興への検討、着手を急ぐ。

橋がつなぐ　みんなの未来
社団法人　日本橋梁建設協会
http://www.jasbc.or.jp/
あなたの「気になる橋」をお寄せください。
ご当地自慢の橋、その橋にまつわるエピソード、橋の疑問など、橋にまつわることなら大歓迎です。宛先は、〒102-0075 東京都千代田区三番町7－1朝日三番町プラザ　NPO法人 人と道研究会まで。

国家百年の計で実行可能案を

ハロハロ 17

国土交通省顧問
芝浦工業大学大学院教授
谷口博昭

新しい世紀に入って10年が経過した。先行きの見えない不透明感が国民の不安感を払拭できずにいたが、3月11日に起こった東日本地震は、その不安感を増大させた。

長さ500㌔、幅200㌔に亘って3度の連続地震が発生、15㍍級の巨大津波により、原発事故を含む広域的で甚大な被害をもたらした。

想定外かどうかが議論になっているが、起こった後の危機管理がいただけない。情報の収集、共有、発信が出来ていない。政治主導、地方主権、規制緩和で政と官、国と地方、官と民の役割分担が定まっていないことが背景にある。

平常時でない、危機管理である。政治は政治のことに専念し、現場に出来ることは現場にまかせるような現実的な対応がない限り適時、適確な対応がとれない。

責任の犯人捜しをする前に、まず復旧の見通しをつけることである。食事、衛生・医療、仮設住宅、仮設トイレ等の整備、2500万㌧に及ぶガレキの処理、インフラの復旧等々方針に基づき実行することである。見えないものが見えてくれば元気が出る、知恵が出るというものである。

目先のことにとらわれがちだが、国家100年の観点から、ハード、ソフトのバランスのとれた計画を基に、地方自治体、地元住民の意見を踏まえた、絵に描いた餅でない実行可能な案を期待したい。

大きな価値観を共有し、知恵と力の結集によりこの国難を乗り越えていくことである。

グリーン・ツーリズム いまこそ

街頭での募金活動。右上の写真の右がLOWE FARM経営者のジュリエットさん

未曾有の地震、津波、放射能汚染の三重被害。島国日本が恩恵を受けてきた豊饒の海が、大地の震動で脅威・怨念の海と化した「東日本大震災」。東北出身の筆者には「大切な郷土・仲間の喪失」という辛い試練となった。その東北が、不幸のどん底ともいえる被害を受け、毎日が命を繋ぐ危機的状況となっている。

グリーン・ツーリズムの実践者の間でも支援の動きが見え始めた。新潟県胎内市は「東北ツーリズム大学」の縁がある岩手県遠野市に水や野菜など支援物資をいち早く送り、宮城グリーン・ツーリズム協議会のメンバーは、被災した実践者に直接支援したり、慰労のための激励会を行った。

紹介してきた「農林漁家民宿お母さん百選」の「お母さん」の中にも被災者はいるが、富山県南砺市の農家民宿「いなくぼ」の米倉みつ子さんは、避難者家族を1年でも無料で受け入れて良いと門戸を開く。英国の農家民宿「LOWE FARM」のジュリエットさんは、震災後直ぐ日本支援の募金活動をし、民間団体を通じて義援金でシェルターボックスを宮城県に送った。

心と心を繋ぎ、都市と農村を結ぶ。命の尊さを共感し、命を繋ぐ営みであるグリーン・ツーリズム。英国では、「Escape for the hidden countryside!」（あの隠れた田舎へ逃げていこう）というキャッチコピーが受け入れられている。絶望から希望へ。この大災難を、みんなの力で乗り切り、協働・共生の成熟国家にする！　東北こそ、人間福祉・復興の首都にふさわしいと信じ、動きたい。

（東洋大学社会学部長・青木辰司　NPO法人日本グリーンツーリズム・ネットワークセンター代表理事）

「道の駅と防災」を考える読者アンケート

国土交通省や自治体が、道の駅の「防災拠点化」を進めている矢先の大震災でした。道路利用者として、改めて「道の駅と防災」についてどう感じているか、お尋ねします。

Q1　道の駅は防災拠点として、どのような対応を欲しいと考えますか。（3つお選びください）
① 地域住民のための避難所　② 道路利用者や住民のための臨時避難所　③ 災害復旧車両や防災機関（自衛隊、警察等）の拠点　④ 長期にわたる避難所（仮設住宅設置）　⑤ 情報提供や炊き出し等の短期利用　⑥ その他（自由回答）

Q2　平常時から道の駅が準備しておいたほうが良い、最低限必要なものは何でしょうか。（3つお選びください）
① 食料などの備蓄　② 貯水槽や井戸の設置　③ 非常用発電機　④ 太陽光発電　⑤ 簡易シャワー　⑥ 災害用簡易トイレ　⑦ ラジオ　⑧ 衛星電話　⑨ ガスコンロ　⑩ 避難車両や仮設住宅対応可能な広い駐車場　⑪ その他（自由回答）

Q3　どのようなところにある道の駅を防災拠点化したほうが良いと考えますか。（3つお選びください）
① 住宅密集地に近い場所　② 海岸に近く高台にある　③ 公民館や学校など連携可能な施設に近い　④ インターチェンジに近い　⑤ 交通量が多い路線　⑥ 主要な観光地に近い　⑦ 災害対策上の重要路線に接している　⑧ その他（自由回答）

Q4　防災拠点としての「道の駅」について、ご意見やご要望などがあれば、ご自由にお書きください。

Q5　この新聞は、どこで入手されましたか。

ホームページ（http://www.route-press21st.jp）

応募方法	右の回答用紙に記入し、点線の枠に沿って切り抜き、はがき等に貼付し投函してください。ホームページからも回答できます。
締切日	平成23年5月31日
送付先	〒102-0075 東京都千代田区三番町7－1朝日三番町プラザ NPO法人 人と道研究会

道21世紀新聞では、毎号「人と道」に関する読者のご意見を募集し、人と道のあり方をともに考えるコーナーを設けています。第32号は『道の駅と防災』を実施します。

寄せられたご意見は、道21世紀新聞でご報告させていただくほか、行政や「道の駅」関連諸団体にも提供し、今後の「道の駅」ならびに近隣地域活性化に供する資料として活用いただくことを働きかけます。ご回答はすべて統計的に処理し、結果のみを公表し、個人を特定できるデータを外部に開示することは一切いたしませんので、どしどし遠慮ないご意見をお寄せください。

なお、今回のアンケート回答者の中から抽選で30名様に記念品を贈ります。

ENQUÊTE ENQUÊTE ENQUÊTE ENQUÊTE ENQUÊTE

「人と道」を考えるアンケート

ご意見をお寄せください！

ご記入されましたら、点線で切り取って、はがきなどに貼り付けてお送りください。

第32号『道の駅と防災』アンケート回答用紙

Q1：＿＿　＿＿　＿＿
Q2：＿＿　＿＿　＿＿
Q3：＿＿　＿＿　＿＿
（優先順位の高い順にご記入ください）
Q4：
Q5：　県　（駅名）
フリガナ
お名前：
郵便番号：
ご住所：
お電話番号：
メールアドレス：
性別：男・女　年齢：　歳　職業：
通信欄：（その他、ご意見などがありましたらご記入ください）

読者の声

☆旅がとりもつ縁

旅行するときはいつも道21世紀新聞ルートプレスを携帯することが、習慣になっております。列車の中で読むのもまた旅の楽しさが倍加します。先日、旅の折に隣りの席に座った方が私の読んでいるルートプレスにとても関心を持ったようでした。そこで、「よかったらお読みになりませんか」と声をかけると、「実は私も愛読者なんですよ」と言って恐縮しながら受け取られました。ごく短い対話であったが、愛読者同士の心の触れ合いをこの時ほど温かく感じたことはなかった。ルートプレスがとりもつ縁で楽しい旅の一コマを持つことができ、満足しました。愛読していることを誇りに感じました。（北海道桧山郡　無職・67歳）

☆障害者に優しく

主人が障害者になってから初めて道の駅へドライブしました。一番気になって出かけたことはトイレでした。どこの駅へ行っても、障害者用トイレが設置されていることが道の駅巡りの大切な項目になりました。道の駅巡りは、なぜか心がうきうきしてとても楽しみなものです。何か特別なことをやっている時は何倍も得した気分で楽しさが倍増して帰宅します。（千葉県佐倉市　主婦・65歳）

☆学びの場に賛成

私は新潟中越地震で被災しました。経験上、「道の駅の防災拠点化」は大切なことで、うれしく思っています。新たに「学びの場」機能が加わるとか。大賛成です。私もボランティアとして中越地震の語り部を始めたいと考えています。（新潟県長岡市　大学事務職・59歳）

（山梨県北杜市の道の駅「南きよさと」で450匹の鯉のぼりが元気に泳ぎ始めた）

☆熱意伝わる便り

「読者の声」の皆さんの道の駅への熱意が伝わるお便りが多く、胸に残りました。息子さんのために福祉風呂が欲しいご夫婦。災害時に駐車場が埋まってしまうのではと危惧する方。どちらも願いが叶うと良いと思いました。道の駅の北海道内を半年で制覇するすごいマニアもいるのですね。これからも私以上。ファンの皆さんの話をどんどん載せてください。春から道の駅巡りでーす。（岩手県岩手郡　会社員）

☆ぜひ見てみたい

31号の「今年話題のひな祭り」はカラーなので分かりやすく、30段、100段のおひなさまにはビックリしました！我が家にも5歳、3歳の娘がいるので、ぜひ見てみたいと思える記事でした。娘たちは道の駅が大スキです！　その土地でしか味わえないおいしさがたくさんあってイイですよね。（岐阜県郡上市　主婦・29歳）

☆建設業者の一面

建設業協会、地元業者のもう一面（災害時の活躍）が紹介されているのは参考になりました。道づくりの担い手の建設人は今、大きな岐路に立たれ、生き続けるための異業種転換も話題の一つ。新たな視点と取り組みに注視しています。（奈良県宇陀市　NPO代表・67歳）

☆農業は大丈夫？

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）参加で、日本の農業はどうなるのか心配です。TPP参加は避けて通れない問題ですが、基盤が弱く、今も問題の多い農業は大丈夫でしょうか。農業は、米だけでなく、自然の原風景をなすため、食の安心・安全も大事だと思います。（福岡県大牟田市　無職・63歳）

☆駅の便利さ感謝

「ゆうひパーク浜田」は何度か利用したことがありますが、石見神楽の公演もしているのですね！「道の駅」といえば、ドライブの途中に休憩する場所といったイメージでしたが、こういった「学びの場」が加わると、地域のことを知るきっかけにもなりますね。「読者の声」のトイレの投稿について外国の道の駅の状況を知ってびっくりしました。日本の道の駅の便利さがとてもありがたいです。（広島市　会社員・27歳）

☆適合駅どれほど

道の駅を学びの場あるいは防災拠点として活用することは基本的には良いと思いますが、全国の道の駅でそれに適合する道の駅がどれだけあるでしょうか。当地東濃エリアでも学びの場あるいはセミナーや会議ができるようなスペースを持っている施設は思い当たりません。それぞれの事情を考慮して対策を検討するのも良いかもしれません。（岐阜県恵那市　無職）

◆お便り募集

このコーナーでは、道の駅をはじめ、農家レストランや道路などに関する読者の皆様の様々な声を紹介していきます。お便りはハガキで〒102-0075 東京都千代田区三番町7－1朝日三番町プラザ NPO法人 人と道研究会宛てにてお寄せください。パソコン・携帯からは、読者専用のメールBOX（dokusya@route-press21st.jp）まで。お便りのほか、写真の投稿も大歓迎です。採用分には記念品をプレゼントします。

おもしろ万葉集

奈良　正

とぶさ立て　足柄山に　船木伐り
材に伐り行きつ　あたら船材を
（万葉集・巻三・三九一番）

「とぶさ」を挿し、足柄山の神を祀り、樹を伐って、船を造る原木と決めていたその樹を、誰かが伐って持ち去った。すばらしい船材であったのに、惜しいナア。

× × ×

とぶさ（鳥総）。木樵が大樹を伐採する時に、その樹の梢を折り根元に挿し、山の神を祀る。この梢を「ニワトリの鶏頭」に見立てた呼び名。意味は、伐り倒す樹の生命を受け継ぐ二代目の若木・後継の苗木――「伐れば植える」は、木樵・山人の作法である。

今こそ「とぶさ」を立てよう!!

「とぶさ」は呪術的な当座の「植樹儀礼」。変若返る若木が、継がれ――て、森林を育て増殖する。そして豊かな材木供給となる。

常緑の山々が、不変・悠久の「自然観」を産み、人はあやかり「不老」を願望する。

万葉人は、森林を「復活・蘇生」させる。

とぶさ立て、舟木伐ると言ふ。能登の島山。
今日見れば、木立茂しも。幾代神びぞ。
（万葉集・巻十七・四〇二六番）

「とぶさ」を挿し、神に願って舟木を伐り出すという能登の島山よ。今日見ると樹木は繁りに茂っているナア。幾世代を経て堂々の森林になったのか!!

日本列島は今、強度の地震と大津波襲来で、前代未聞、未曾有の大惨事の渦中にある。

今こそ、「とぶさ」を、すべてのところに、各種各様の「とぶさ」を立てよう!!

〝深い悲哀と鎮魂の念い〟胸中に秘めて……

（万葉研究家）

類をもって集まる　同類相集

いろは歌留多

今回は「る」の平仮名は「留」から生まれている事をお見せします。

留留留るる

瑠璃も玻璃も照らせば光る
瑠璃も玻璃も磨けば光る

江戸かるた
「瑠璃も玻璃も照らせば光る」

○ 瑠璃は中国で珍重された宝石。玻璃はガラスのこと。
解釈は二通り。
①「宝石もガラスも照らせば光る」… 真と贋（にせ）とが光り方により区別できる。天然の宝石か人口のガラスかは照らせば判別できるという意味。
②「照らせば」を「磨けば」に置き換えて「宝石もガラスも磨けば光る」… 才能や素質は違っていても、磨けば（努力をすれば）同じように光る（立派な人間になる）。人生に希望を持てという論（さとし）。

大阪かるた
「類をもって集まる」

京かるた
「類をもって集まる」

○ 性格、気質、趣味の同類の者が自然に寄り集まってくる人間の性向。この絵札の解説… 江戸の泰平の世に異を唱えて横行闊歩した旗本奴（はたもとやっこ）の図。異装の禁止令の出ている中でわざと大びたいを広く剃り着物に下駄はきのイカレタ服装をしていた、そしてその仲間も集まり○○組といわれグループ化されてもいた。現代の一部の若者の服装や風俗にどこか似ている。

中京かるた
「類をもって集まる」

（社）全日本書道教育協会　http://www.shokyou.jp/html/　同協会発行誌「書教」より転載

「道の駅」18駅を追加、全国計970駅

国土交通省道路局は3月3日、新たに「道の駅」18駅を追加登録し、全国の「道の駅」は計970駅になったと公表した。今回の追加駅は北海道2、福島県1、群馬県4、岐阜県1、大阪府1、京都府1、福井県1、島根県2、鳥取県1、岡山県1、徳島県1、福岡県2の計18駅。「道の駅」は1993年に全国で103駅が登録されたのを手始めに、これまで34回の追加登録。（下表は国交省HPより）

◆おことわり　「道の駅のおすすめプレゼント」は今回お休みしました。

道の駅「若狭おばま」（福井県）

駅名	所在地	路線名	供用予定日	ひとくちPR
夕張メロード	北海道夕張市紅葉山529	一般国道274号	6月18日	ＪＲ新夕張駅とも隣接。夕張メロンや新鮮野菜も
おだいとう	北海道野付郡別海町尾岱沼５番地27	一般国道244号	営業中	展望塔からは、野付半島や国後島を一望できる
季の里天栄	福島県岩瀬郡天栄村大字大里字天房50-1	一般国道294号	営業中	福島空港や郡山市に近く、自然豊かな田園風景
甘楽	群馬県甘楽郡甘楽町大字小幡444-1	主要地方道 富岡神流線	営業中	城下町小幡の玄関口。国の名勝「楽山園」へ5分
あぐりーむ 昭和	群馬県利根郡昭和村大字森下2406-2	主要地方道 昭和インター線 村道森下赤城原線	7月	高原野菜や加工品などの産地として知られる昭和村の新鮮野菜がずらり
オアシスなんもく	群馬県甘楽郡南牧村大字千原3番地1	主要地方道 下仁田上野線	5月	新鮮野菜に地元かあちゃんのてづくり惣菜が好評
ふじみ	群馬県前橋市富士見町石井1569-1	一般国道353号	7月	赤城山を訪れる観光客のお気軽休憩スポット
池田温泉	岐阜県揖斐郡池田町片山1953-1	主要地方道 岐阜関ヶ原線	7月	温泉、足湯にショッピングの新感覚道の駅
愛彩ランド	大阪府岸和田市三ヶ山町448番3	一般国道170号	5月	「岸和田らしさ」を内外の人々に伝える交流の拠点
くみはまSANKAIKAN	京都府京丹後市久美浜町浦明1709	一般国道178号	5月 既存施設は営業中	地元農家産直の野菜・花苗を来訪者等へ販売。地域食材を生かしたレストランも
若狭おばま	福井県小浜市和久里24号45番地2	主要地方道 小浜上中線	営業中	地場特産品販売に加え、農産物加工体験もできる
あらエッサ	島根県安来市中海町118番地1	一般国道9号	営業中	安来節で有名なドジョウを使用した和風レストラン
燕趙園	鳥取県東伯郡湯梨浜町引地563番地1	主要地方道 倉吉青谷線	営業中	本格的な中国庭園「燕趙園」と温泉施設が隣接
笠岡ベイファーム	岡山県笠岡市カブト南町245-4	一般国道2号 笠岡バイパス	8月	地域の農水産物を販売する直売所やレストラン
おろちの里	島根県雲南市木次町北原	一般国道314号	4月	木造瓦葺施設、地元食材を使った農家レストラン
ひなの里かつうら	徳島県勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬	主要地方道 徳島上那賀線	営業中	勝浦町特産のみかん等の展示販売
みやま	福岡県みやま市瀬高町大江2328番地	一般国道443号バイパス	営業中	全国的にも珍しいハゼの実から作る和ロウソク
いとだ	福岡県田川郡糸田町162番地4	一般国道201号	営業中	気軽に地域の多様な味を楽しめる屋台的サービス

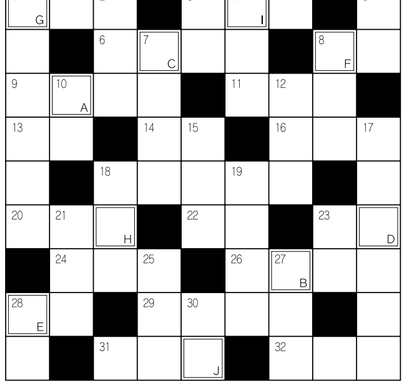
クロスワード　人と道パズル

★ヨコの鍵

1、ササッと掃くとき、使います
3、島根県にある宍道湖の名産といえば？
6、ほどほどにね
8、カボチャが南ならスイカは？
9、ひらがな・○○○○・漢字
11、独身ではありません
13、函館名物
14、5・○○・7
16、おかわり！
18、飯田橋の近くにある有名な坂といえば？
20、ソバのライバルなんだ
22、勝利を表すアルファベット
23、琵琶湖はこの県にある
24、プールでプカプカ。ドーナツじゃないよ
26、南武線は川崎から○○○○までを結びます
28、スーパーで列ぶ
29、いい国作ろう、○○○○幕府
31、パソコンのモニター
32、○○○・マゼンタ・イエロー

★タテの鍵

1、函館・小樽・札幌
2、もらえるお許し
3、梅干に合う葉
4、「字引」何と読む？
5、果物そこにあるのに○○なんて…？
7、⇕デジタル
8、強制ではありません
10、能ある○○は爪を隠す
12、「君が代」は私たちの？
15、トランプのスーツで黒なのはスペードと？
17、相模原・横須賀・横浜
18、窓を開けて部屋を○○○する
19、家で仕事する
21、ズレがない
23、奈良公園にいる
25、カツオくんの妹。海産物なの
27、新聞に折り込まれてる
28、お辞儀する？
30、千の上、億の下



問題作成・寺崎美保子　http://zeropage.jp

31号の正解は「ミチノエキニツドウ」でした

応募方法

●クロスワードパズルの答えA～Jを記入し、①氏名②郵便番号・住所③電話番号④性別⑤職業⑥年齢⑦趣味⑧この新聞を手に入れた場所⑨今月号で一番面白かった記事⑩その他のご意見・ご感想を官製はがきに明記し、〒102-0075 東京都千代田区三番町7－1朝日三番町プラザ NPO法人 人と道研究会、5月31日必着でお送りください。パズルの正解者には抽選で30名様に記念品をプレゼントします。

道の駅文庫

「人は成熟するにつれて若くなる」とヘルマン・ヘッセは言っています。私たちも、そのように成熟しながら、健康で、楽しく、美味しく暮らし、いつまでも若々しい気持ちで人生の道を歩いていきたいものです。

道の駅文庫は、そのような視点から、太陽や風を感じられるすぐれた図書を選定し、ご案内いたします。

「くじけないで」
柴田トヨ 著
（飛鳥新社）

被災者の皆様に　柴田トヨ

あぁ　なんという
ことでしょう
テレビを見ながら
唯　手をあわすばかりです

皆様の心の中は
今も余震がきて
傷痕がさらに
深くなっていると思います
その傷痕に
薬を塗ってあげたい
人間誰しもの気持です
私も出来ることは
ないだろうか？　考えます
もうすぐ百歳になる私
天国に行く日も
近いでしょう
その時は　日射しとなり
そよ風になって
皆様を応援します
これから辛い日々が
続くでしょうが
朝はかならず　やってきます
くじけないで！

この詩は、九十九歳の詩人柴田トヨさんが東日本大震災に際して書いたものだ。柴田さんの詩集『くじけないで』（飛鳥新社）の出版を記念して、「詩人・柴田トヨの世界」展が相田みつを美術館（東京都千代田区丸の内3－5－1、東京国際フォーラムガラス棟地下1階）で7月3日まで開催されていて、詩集には掲載されていないこの詩を筆写してきた。この詩を被災したすべての人に、そしてこの震災に恐れ立ち竦んでいる日本のすべての人々に届けたい。

（花信風子）

くじけないで朗読DVD